



火の柱

Friends of Jesus 2021.9 第728号

イエスの友五綱領

- ①イエスにありて敬虔なること
- ②負しき者の友となりて労働を愛すること
- ③世界平和のため努力すること
- ④純潔なる生活を尊ぶこと
- ⑤社会奉仕を旨とすること

イエスの友会は、上の五綱領を、生き方の基盤としているキリスト者と賛同者の群れです。(結成1921年10月5日)

特集『イエスの友会百周年記念夏期聖修会』1p「神の国に錨を投げ込む—呪縛からの解放」鈴木武仁、2.3p「イエスの友会と賀川豊彦」黒川知文、4p「夏期聖修会を終えて」高島史弘、「会計報告」小野島正彰

イエスの友会夏期聖修会開会礼拝

『神の国に錨を投げ込む』

—呪縛からの解放—

イエスの友会会長 鈴木武仁

ルカ福音書

8章22〜26節

1 創立百年を迎えたイエスの友会



イエスの友会が、1921(大正10)年10月

5日、奈良の猿沢池畔の料亭「菊水楼」で誕生して百年になる。新しい宗教運動のために賀川豊彦先生の友人の14名の牧師たちが集って祈った。菊水楼の看板には「日本基督教教役者大会」と墨書きされた。「役者が来る」と勘違いした近所の娘たちが大勢覗きに来たそうだ。

1923(大正12)年3月11日までに「五綱領」は決まり「敬虔、労働、平和、純潔、奉仕」を掲げて呼びかけたところ339名の入会者が与えられ、御殿場東山荘にて第一回イエスの友会聖修会が8月25日〜29日まで開催された。終わって間もなく9月1日に襲ったのが関東大震災だった。賀川先生、33歳の頃であった。神戸から上京し、救援活動に従事した。イエスの友会の同志たちはみんなで困窮者の友となり祈り、世話をした。不尽油壺の奇蹟を信じ聖書信仰に立って使命感を持ち続け「一人一業」を旨として下座奉仕をした。

このイエスの友会は一つの運動体として継続できたのは、賀川イズムを継承

してきたからであるが、いつの間にか賀川預言者学校の同窓会のようになった。

それまでのイエスの友会といえれば協同組合運動そのものであり、平和運動の代名詞のような働きをしてきたが、それらは専門集団が受け継ぎ、イエスの友会はキリスト教界の一端を担う集団となっていた。しかしそれが本来のイエスの友会のめざすものではなかった。

2 天国を求める群れ

「神の国が来ますように」祈りなさいとイエス様は言われた。神の国、天の領域に錨を投げ込み、この地上に引き降ろす、天を地にもたらす群れが、イエスの友会であった。この世は荒れ狂う海、混乱の社会、揺れ動く大地、疫病が蔓延する呪われた地であるように見えるが、そこに御国を引き降ろせというのである。

多くの教会は祈り、暴風の中で恐れおのきながら乗り込んだ舟の中で、早く「向こう岸」につくことを願う。イエス様と共に舟に乗り込んだ弟子たちはみな不安と恐れでおのいた。イエス様は舟の後部で眠っていた。彼らはイエス様を揺り起こして救いを求めた。

イエス様は風と波を叱るとなぎとまった。なぜか？

神の国の平安が訪れたからである。御国を引き降ろすと、平安がやってくる。信仰とは、現実的なものである。空想的な、不確実なものではない。ヘブライ語で「信仰」とは、エムナーと言うが、堅固、着実、の意味があり、岩のような確実な事柄を指す。キリスト教での救いとは、罪からの救い、贖罪愛、十字架愛を強調するのですが、賀川先生は現実的

課題を解決する実践的なものと理解したようだ。

こんなことを言っている「僕は天国とは、この世で他人の欠点を裁かず、努めて長所を認めて仲良くすることだと信じている」「福音的教会と言っても、その地域に奉仕することを忘れて、『ただ伝道、伝道』とのみ叫んでも駄目だよ。

ここで賀川先生はもう一つの救いを見ていた。それは嵐の中で木の葉のように揺れ動く舟の中で居眠りしていた足元にいるイエス様と共にいることだった。神様が共にいてくれるなら何も恐れるものはない。インマヌエル信仰だ。

「向こう岸」に希望が本当にあるのだろうか？ 現に到着してみるとそこがゲネサラの地で、最初に出会ったのは、裸の狂人であった。呪いの言葉を吐く乱暴者だった。

この地上は、そのようなところである。混乱、不条理、争い、悲しみ、孤独、困窮、病で満ちている。妬み、そねみ、呪いで満ちている。

『ノルウェイの森』の小説でベストセラーとなった村上春樹さんは、日本を脱出した。その理由は、業界から発信された組織的な呪いから逃れるためだった。呪いの届かないところに逃げる。人を傷つける言葉がネットで書き込みされる、今日の社会は、話し合いも相手を黙らせるデイベートで一刀両断するのがよいと思わせる。「朝まで生テレビ！」などはその典型。人の話を折り、割り込み、切り捨てる手法が主流となっている。この破壊的な手法は新しいものを創り出すものではない。「落としどころ」を捜し、「合意形成すること」、全く違う意見

にも敬意を払う、配慮することを忘れた社会となっている。

いまでは人権を無視し、信仰の自由を無視し、民族の自決権すら排除する国家すら生まれている。

イエスの友会は、そのような立場を嫌い、神の国を地にもたらすこと、天の領域の侵入を目標に掲げて活動していた群れであった。超党派、超宗派、超教派を旨とした。一つの思想、信条で、ほかの思想、信仰を弾圧する、異端と決めつけることは文化の否定として避けた。しかし今日、覇権国家はそれを拒否し、統一のために少数者を排除する。賀川先生は、これを考慮し、世界連邦を考え、単なる大同団結ではない。そこに組合国家群としての世界連邦の理念があった。

神の国は、愛と喜びと豊かさが満ちていて、呪いや妬みや戦争もない、抑圧もない、互助の新しい命で満ちている世界だ。そんな天を引き降ろすために現実的課題の取り組む指針としたのがイエスの友会五綱領であった。これはいままも変わらないイエスの友会の使命である。このために遣わされたのがイエスの友の同志たちであった。これにはまず自分に打ち勝ちみこばを實踐するものとならねばならない。各自が神様から割り振られた残りの生涯を、堅固な信仰をもって任務を遂行していかなねばならないのである。

コロナ禍の嵐吹くこの世にあつて迎えた百周年のこの年、かつて関東大震災で救援に出かけた同志たちのように、荒廃する戦後の日本復興のために「神の国運動」を展開した同志たちのように救いの具体化のためにコロナを排除する信

仰をもって福音の使者として出ていきたいものである。

詩篇91編にこうある、「いと高き神のもとに身を寄せる隠れ、全能の神の陰に宿る人よ、暗黒の中を行く疫病も、真昼に襲う病魔も、あなたの傍らに一千の人、あなたの右に一万の人が倒れるときすら、あなたを襲うことはない。あなたには災難もふりかかることがなく、天幕には疫病も触れることがない。主はあなたのために、御使いに命じて、あなたの道のどこにおいても守らせてくださる。あなたは獅子と毒蛇を踏みにじり、獅子の子と大蛇を踏んで行く。私たち自身も神の御使いとして主イエス様の大宣教命令に従うものであることを宣言してイエスの友会百周年を祝いたい。

神との平和をもとめてーイエスの友会と賀川豊彦ー

賀川豊彦記念松沢資料館館長 黒川知文
1 神の国運動



賀川豊彦(1888~1960)は、労働組合運動、農民運動、協同組合運動、無産政党樹立運動に献身し、1923年9月に関東大震災が発生すると東京に移住して、罹災者と救済やセトルメント事業に力を尽くした。また生涯を通じて牧師として日本と世界に

キリスト教の伝道を行い、特に1928年から5年間をかけて実施された神の国運動は、日本史上、最大の大衆伝道活動である。(図1参照) 賀川豊彦は、その

に戦後は新日本キリスト運動も実行し、ラクーア音楽伝道にも講師として協力した。

神の国運動と、戦後の新日本建設キリスト運動とは、一般大衆である都市下層民、農民などに対する慈善運動や教育活動を伴う宣教運動であった。農民福音学

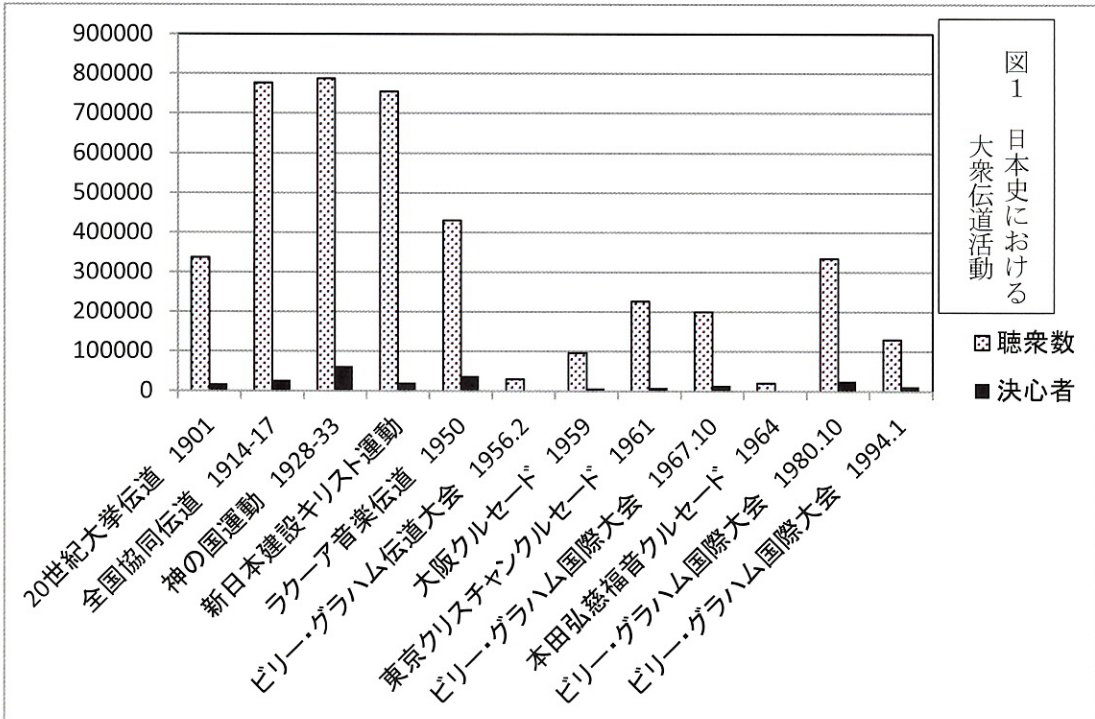
校、日本福音学校により運動は全国に展開した。

賀川は、自身の要求水準が高いために、神の国運動は失敗であったと述べているが、実際はそうではない。集会数1859、聴衆概数約79万人、信仰決心者数62410という驚異的な成果を上げている。新日本建設キリスト運動では信仰決心者数は200987にも及ぶ。

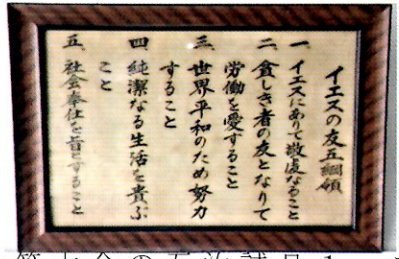
2 イエスの友会

賀川豊彦の活動を支援する団体は、国内にも国外にも数多くあった。イエスの友会はそのうちの一つのキリスト教団体である。

「大正9年(1920)、10年(1921)は労働運動に専念するが、11年(1922)以後は、本来の職務として与えられた精神運動に帰る考えである」(『火の柱』1958)と賀川が述べたように、労働運動主流と決別し、賀川は新たに協同組合運動を展開するが、他方、「社会的転換のためにはまず精神的な転換が不可欠である」と考え、既成教会への強い不満感もあり、創設されたのがイエスの友会である。それは、「愛で結ばれたコミュニティ」であり「教会のあるべき姿」であり超党派団体として社会的弱者



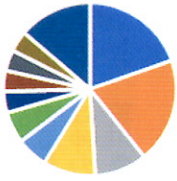
に実質的な援助をも行う信徒中心の会であつた。



イエスの友会は、1921年10月5日に結成され、「わが誠命は是なり、わが汝らを愛せしごとく互に相愛せよ。人その友のために己の生命を棄つる、之より大なる愛はなし。汝等もし我が命ずる事をおこなわば、我が友なり」(ヨハネ福音書15章12〜14節)に基づき吉田源治郎が命名した。在俗修道会であるフランシスコ会第三会の構想「信徒が一般社会において『貞潔』服従『清貧』を証しする」と、イエズス会の適応主義の伝道方式「土着文化を取り込んでいく」を採用して、「五綱領」を掲げた。(写真は豊島教会礼拝堂にある五綱領)

イエスの友会は、会員の自発的な精神により支えられた団体であり、五綱領を守ることを以外、束縛、強制する要素はなかったと思われる。会員は日本各地に散在する牧師、学生、店員、銀行員、看護士、大工

判明した51人中



- 学生
- 店員
- 会社員
- 郵便局員
- 電気建築
- その他
- 牧師
- 銀行員
- 教師
- 大工
- 印刷工

(写真参照) プログラムは主に講義と祈りであり、講義は聖書の話を実質的な社会活動に結び付ける内容であつた。講演者と演題は以下であつた。

等多様多様であつた。(表は1922年1月22日の新入会員の職業分析) 賀川豊彦は募集した会員たちに事業をまかせて仕事を強要することはなかつた。会員は、祈り、必要な時には寄付を集め、事業が拡大すると、賀川の代わりに事業を運営していった。

『雲の柱』は、全国的に販売された月刊キリスト教雑誌であり、会員は『雲の柱』の巻末で募集された

賀川の多くの社会事業は人材的にはイエスの友会によって支えられ、経済的には賀川の著作の印税、国内外からの寄付によって支えられていた。

イエスの友会の事業内容は、小冊子運動、路傍伝道、教会心援伝道、病院訪問、看護婦ミッション運動、店員ミッション運動、ライ救済MTL運動応援、本所基督教産業青年会奉仕、東京復活共済組合奉仕、四貫島セツルメント奉仕、ロッジ経営、其他社会事業団体及び教化運動の応援等と多岐にわたる。

イエスの友会修養会は、毎年行われる代表的な行事であり、参加者は賀川等指導者から直接ビジョンや教育を受けた。

第1回修養会は1923年8月25日から5日間、御殿場の東山荘において開催され、参加者は47名で20名は女性(多くは学生)であつた。



賀川豊彦「使徒ヨハネの宗教的経験」「ヨブ記」「聖書社会学」「生存競争の研究」石田友治「人生の岐路に立てるイエス」村島帰之「婦人労働問題」

新明正道「社会学に於ける宗教的理解」修養会における祈りは、日常の具体的な内容であり、「教会とその事業のため」「職業婦人のため」「労働組合のため」等であつた。修養会で学んだことは、地域に持ち帰り実践することが期待された1956年以降、修養会は夏期聖修会と呼称が変更され、現在に至っている。

3 イエスの友会と神の国運動
関東大震災後、1928年以降、イエスの友会の会員が増加して、神の国運動を支えたことが分かる。(図2参照)

また、イエスの友会機関紙である「火の柱」には、神の国運動のために祈ることが一面に掲示されている。(図3)

図2 震災後のイエスの友会会員数推移

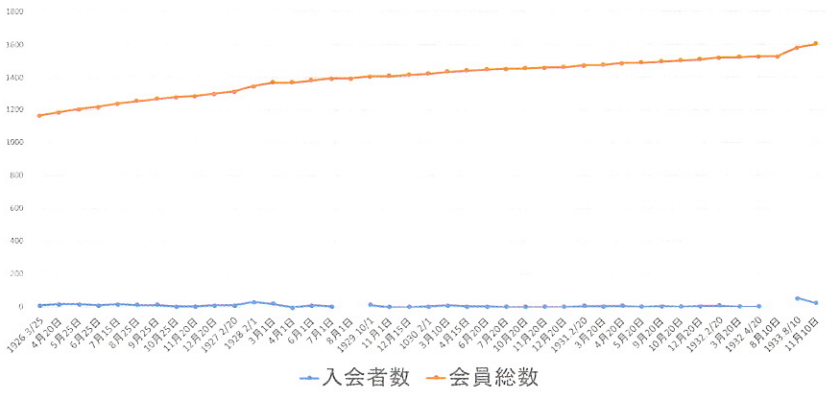


図3 火の柱

聖き闘争へ
賀川豊彦

神の国運動のために
今月の祈り

また、黒田四郎、金井為一郎等、イエスの友会に属する牧師や信徒が賀川豊彦とともに

積極的に講演や説教を行っている。会員も講演開催のために貢献した。

4 結論

結論として以下の3点が挙げられる。

1 イエスの友会は神の国運動を支えた「教会」であり、賀川豊彦の親衛隊であった。

2 賀川豊彦は、「神を愛する」縦軸の神とのしつかりした愛の関係があったから、横軸の「隣人を愛する」社会活動を大規模に広げることができた。

3 賀川豊彦が生涯を通して求めた聖書の言葉は以下であった。

先生、律法の中で、どの戒めが一番重要ですか。「イエスは彼に言われた。「あなたの心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』これが、重要な第一の戒めです。あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」という第二の戒めも、それと同じように重要です。この二つの戒めに律法と預言者の全体がかかっているのです。『マタイ福音書』22章36〜40節

夏期聖修会を終えて

事務局 高島史弘

コロナ禍の中で、集会については教会内外から賛否ある中で、百周年記念の夏期聖修会を開催するか否かは、ギリギリの判断が求められるものでした。残念ながら辞退せざるをえない方々もたくさんおられました。鈴木武仁会長はじめ、準備にあたる者たちは、毎月、インターネットのオンライン祈禱会で会議を重ねて祈ってきました。そして、「現地在緊急事態宣言発令していなければ開催する」という

判断基準の元で、ついに開催することになりました。当日は、現地にこなくても良いようにオンライン参加の申込みを事前受け付けて、開会・閉会礼拝や講演会のオンライン配信をしました。初めての試みの中で、夏期聖修会が守られて、全うできたことは、会員の皆様の協力と、背後の祈りあつてのことと感謝しております。特に大阪の会場を提供してくださった会員で、ロングライフグループ会長の遠藤

正一さん、はじめ職員スタッフの方々に改めて感謝し、関係者の方々の神の祝福をお祈りします。第一日目、開式礼拝から始まり、百周年の記念誌が、記念式典の中で主に献呈されたこと感謝でした。またゴスペルコンサートは、主の臨在あふれる素晴らしいひとときでした。第2日目主講師の黒川先生、浜田先生のお話は、示唆に富んでおり、大変教養られました。第3日目 最終日、イエスの友会結成の地、奈良の料亭、菊水楼に集いました。十数名で共に礼拝をして、五綱領を唱えて、ビジョンを分かち合えたことは、歴史的な意義があると思えます。賀川豊彦先生らが、イエスの友会をはじめたころの原点にかえって、私たちが、イエス・キリストにあつて、この世界に違いを生み出し、社会を改革していけるように、願います。そのために、主が、これからのイエスの友会の歩みを導き、豊かに祝福してくださいませように、続けてお祈りいただけたら感謝です。栄光在主。

2021年度会計報告

2021年六月以降2021年八月迄の状況

◎維持会費(一万二千円) 五名
(小野島正彰、浜田直也、鮫島紘一、及川健治、岩城輝雄)

◎会費(三千円) 十四名(小野島正彰、小野島みき子、稲木聰子、渡辺賢次、加納武、浜田直也、岩倉正美、渡邊和郎、浅香いさく、及川健治、岩城輝雄、鮫島紘一、松下佐谷子、米田昭三郎)

◎感謝献金十八名(百周年記念夏期聖修会の参加者の皆さん)



写真 奈良 菊水楼 前にてイエスの友会 夏期聖修会 参加者集合写真

◎購読料三名(浜田直也、鮫島紘一、及川健治)
◎登録料五名(脇田信一、脇田智重子、原田忠彦、浜田直也、鮫島紘一)
◎百周年記念特別献金十一名(足立克己、鈴木武仁、大野剛、長原武夫、鈴木諭香子、小野島正彰、小野島みき子、岩城輝夫、長谷川勝義、藤本喜代枝、及川健治)
◎百周年夏期聖修会お祝金2件(松沢教会、本所賀川豊彦記念館)
◆会費納入と献金のお願い◆
尊い献金と会費等でイエスの友会の活動をお支え下さり、イエス様にあつて感謝いたします。

▽たくさんの方から会費や献金をいただきました。感謝します。引き続き、各事業活動の費用のための会費や献金をお願いします。会費、献金、維持費、購読料等の振込先は、次のとおりです。
▼郵便振替口座 「001707149586」
加入者名 「イエスの友会本部」
いつもご支援を心から感謝申し上げます
(会計担当 小野島正彰)

「火の柱」第728号
発行人 鈴木武仁
発行所 イエスの友会本部
発行日 2021年9月30日
本部事務局
441-8141 愛知県豊橋市草間町字東山1300 コーポ東山205
高島史弘(イエスの友会 事務局長)
携帯 09069464511600
Mail: kashima@japan.email.ne.jp
郵便振替加金名 イエスの友会本部
口座番号 00170714958600
火の柱編集 長谷川勝義
火の柱原稿メール先 hwp5y8@xi.commu.jp
〒440-0026
愛知県豊橋市多米西町2-2012